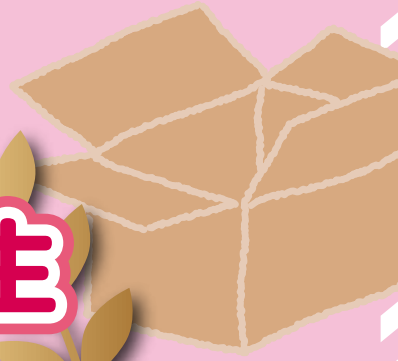


“全国小中学生 紙リサイクル” コンテスト2022

入賞者一覧・受賞作品 作品集

主催

公益財団法人古紙再生促進センター

後援

文部科学省

全国連合小学校長会、全日本中学校長会、

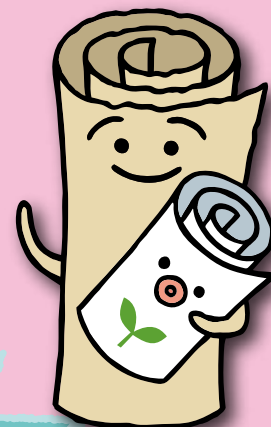
全国市町村教育委員会連合会、

全国小中学校環境教育研究会、

読売新聞社、全国製紙原料商工組合連合会、

日本再生資源事業協同組合連合会、

段ボールリサイクル協議会、日本製紙連合会



2022 年度 入賞者一覧



文部科学大臣賞

作文部門

福岡県 明治学園小学校 3 年

能美 にな

**みんなで目指そう！
紙リサイクル優等生！**

ポスター部門

愛知県 刈谷市立依佐美中学校 1 年

江坂 蒼依

地域みんなで古紙回収！！



金賞

作文
小学生部門

長野県 松本市立芳川小学校 6 年

小室 凉花

紙リサイクルは私の夢

作文
中学生部門

静岡県 静岡市立蒲原中学校 3 年

栗原 微始

自分から“やる”リサイクル

ポスター
小学生部門

千葉県 船橋市立中野木小学校 4 年

須山 柚葵

聞いて！ぼくたちの声！

ポスター
中学生部門

佐賀県 佐賀県立武雄青陵中学校 3 年

原田 彩結

紙リサイクルでまた活きる



特別金賞

全国製紙原料
商工組合連合会
理事長賞

東京都 国立筑波大学附属小学校 4 年

藤本 怜央菜

**リサイクルと節水の両立
(作文)**

日本再生資源事業
協同組合連合会
会長賞

千葉県 千葉市立葛城中学校 3 年

山口 愛理沙

**今、自分にできること
(作文)**

段ボール
リサイクル協議会
会長賞

宮城県 紫山こども絵画造形教室 2 年

千葉 結奈

**また 会おう
(ポスター)**



銀賞

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	福岡県	明治学園小学校	4	野入 桃子	古紙を生かす ～紙リサイクルの大切さ～
	中学生部門	宮城県	気仙沼市立松岩中学校	3	佐藤 里桜	続けること 伝えること
ポスター	小学生部門	東京都	世田谷区立山崎小学校	4	中山 鼎	ありがとう また 紙になれたよ
	中学生部門	宮城県	石巻市立青葉中学校	3	佐々木 恋海	生まれ変わる資源 ～新聞から絵本へ



銅賞

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	三重県	てら小屋遊学舎	4	佐野 雫	みんなで協力 紙リサイクル
		東京都	品川区立大井第一小学校	5	上利 遥	未来に届け
		岐阜県	羽島市立竹鼻小学校	5	浅野 智恵	生まれ変わるなら、生きているうちに！
	中学生部門	三重県	てら小屋遊学舎	2	鈴木 結菜	私と母とリサイクル
		東京都	学習院女子中等科	2	南 明希	リサイクルする社会へ
		静岡県	静岡市立蒲原中学校	3	清野 日菜子	リサイクルの輪の一員として
ポスター	小学生部門	東京都	品川区立小山小学校	1	大岡 晃平	かみをリサイクルしよう
		愛知県	幅下幼稚園・絵画教室	6	奥村 優月	大切な資源を紙リサイクルで新しく
		愛知県	豊川市立牛久保小学校	6	小林 柚菜	変身！！ リサイクルレンジャー
	中学生部門	青森県	弘前市立第三中学校	2	一戸 彩乃	リサイクルは持続可能な社会のピース
		兵庫県	小林聖心女子学院中学校	2	山縣 真帆	リサイクル家系図
		埼玉県	さいたま市立大宮南中学校	3	北沢 心都	待って！捨てないで



学校特別賞

愛知県

刈谷市立依佐美中学校



学校奨励賞

小学校部門

東京都

荒川区立第三日暮里小学校

中学校部門

福島県

白河市立白河中央中学校

目次

3-4P	文部科学大臣賞受賞作品
5-8P	金賞受賞作品
9-11P	特別金賞受賞作品
12-13P	銀賞受賞作品
14-19P	銅賞受賞作品
20P	学校特別賞受賞校紹介
	紙リサイクルコンテスト紹介
21P	学校奨励賞受賞校紹介
22P	審査会ノミネート校・教室一覧



文部科学大臣賞 作文部門

明治学園小学校 3年

能美 にな

みんなで目指そう！紙リサイクル優等生！

コロナかももう三年。インターネットでの買い物が多くなり、家に段ボールがふえた。それをまとめてリサイクルに出すのは、私の役わり。段ボールにふれる機会もふえた。

ある日、ほとんどの箱に見たことのない同じマークがついていることに気がついた。広げた箱のまわりを矢印が一周している。調べてみると、これは段ボールのリサイクルマーク。なんと世界共通のマークだ。あらためて見ると、たしかに海外から届いた段ボールにも同じシンボルマークがついていた。段ボールは段ボールに生まれ変わる。95%以上が回収され、原料の90%以上は古紙だ。かぎられた資源をむだにしない、まさにリサイクルの優等生。このシンボルマークは世界が一丸となってリサイクルに取り組んでいる証なのだ。

リサイクルできる紙は段ボールだけではない。新聞紙、雑誌、雑がみ、紙パックなど、これらは全て「古紙」と呼ばれる資源だ。古紙回収率を調べると、世界の平均が60%ほどなのに対し、日本は80%以上とひ常に高い。また古紙利用率も世界平均を上回っている。日本はまさに紙リサイクル優等生だったのだ。

この紙リサイクル優等国である日本の中で、さらに私にできることは何だろう。去年、自分のまわりの人50人い上からアンケートをとった。その結果、紙リサイクルの知しきはあるても実際の行動にうつせていな

い人が多かった。リサイクルの仕組みや知しきがあるのに、正しく使わなければもったいない。それならばリサイクルを実際にそして簡単にできるような仕組みがあるとよい。ではわが家ではどうだろう。紙リサイクルのために専用の置き場があるのは、新聞紙や雑誌、紙パック、段ボールだ。なんと雑がみだけ専用の置き場がない。そこで「雑がみ入れ」を作った。大きめの紙ぶくろを用意。貴重な資源をうっかりごみにしてしまわないよう、ふくろはごみ箱の近くに置く。すると一週間もたたないうちに雑がみ入れはいっぱい。そういえば、雑がみの6わりがもえるごみとして出されていると聞いたことがある。若い人ほどごみとしてすてているとも。母に聞くと、たしかに雑がみ入れを作ってからわが家の家庭ごみの量もへったらしい。簡単な工夫でこんなにもかわるのだ。今までのかにも多くの資源をごみにしてしまっていたのかと反省した。考えてみると、コピー用紙やおかしの箱など私たち子どもは雑がみと接することが多い。私たち若い世代が雑がみを資源ととらえることが、より紙リサイクルをすすめるカギなのかもしれない。学校でも雑がみ入れを作ったかどうか。きつとたくさん集まるはずだ。

一人一人が紙リサイクルを理解し、協力して、行動しよう。この紙リサイクル優等国の日本でさらに力を合わせよう！みんなで目指そう！紙リサイクル優等生！



文部科学大臣賞 ポスター部門

刈谷市立依佐美中学校 1年

江坂 蒼依

地域みんなで古紙回収！！



作文小学生部門

金賞

松本市立芳川小学校 6年

小室 凉柊

紙リサイクルは私の夢

私は今、学校でリサイクル委員長をやっている。

三年生の時、社会の授業で初めて「リサイクル」というものを知った。それまで聞いたこともない言葉だったので、少し興味があつた。学習が進んで、リサイクルにはどんな目的があり、そのためにどんなことをしているのかなんとなく分かった。

そして四年生のとき、リサイクル委員会に入り、もう一度リサイクルについて教えてもらった。三年生の時より理解ができて、自分のリサイクルへの思いも変わった。「リサイクルっていう活動があつて、ゴミを減らすために協力した方が良いんだな。」くらいにしか三年の時は思つてなかったけど、「自分も協力しよう。」と思うようになった。

委員会では、牛乳パックを回収して資源ゴミとしてリサイクルしてもらう、という活動をしていて、リサイクル活動に協力しているという実感が湧いた。それによつて日常生活でもリサイクルの意識が高まり、資源ゴミを分別したり、できるだけきれいにしてリサイクルしやすいようにしたりするようになった。

そして五年生になり、おどろくことにまたリサイクル委員会に入ることになった。ジャンケンで負けたのだ。でも、二年目となると少しずつ愛着が湧いてきて、しかも丁度SDGsに興味を持ち始めた時だったので、リサイクルについてもっとくわしく知って、新しい活動を試してみたいと考えていた。

そして今に至る。三年目のリサイクル委員会だが、

やりたい事にチャレンジできて退屈しない。牛乳パックの回収は続けている。紙ゴミの中でも牛乳パックの量が多いと思うし、それを全部可燃ゴミとして処分した場合、埋め立て地に灰が積み続けられて、埋められる土地がなくなってしまうかもしれない。空気が汚れて環境汚染につながってしまうかもしれない。だから、牛乳パックを集めている。少しでも紙ゴミの削減にこつてくればうれしい。とはいえ、牛乳パックを持って来てくれる人はとても少ない。リサイクルへの意識がうすいからだ。前にニュースでリサイクルの取り組みについて紹介していて、

「一人一人が意識して協力することで、リサイクルできるゴミの量が更に増えるんですね。」

と言っていた。私も同感だ。一部の人だけじゃなく、周りの人を引き込む力が必要なのだ。牛乳パックを持って来てくれる人から意識を広げていくために、今後も回収を続けてほしいと思っている。

前文に書いた「周りを引き込む」ためには、楽でワクワクする活動が必要だ。例えば、集めた紙ゴミで一枚の絵を作ったり、全国規模でダンボールを集めて立体作品を作ったりして、美術館にかぎる。また、紙から発生した静電気で発電するという挑戦も面白い。とても難しいことだし、今は何かを変える力はないけど、いつか実現できたら良いなと思う。

静岡市立蒲原中学校 3年

栗原 微始

自分から“やる”リサイクル

私の家には、もったいないおばけが住んでいます。普段は、温厚で世話やきの母ですが、例えば私が学校でもらったおたよりを丸めて燃えるごみに捨てようものなら、どこからともなくやって来て、「もったいない。リサイクルしたらまた使えるのに、もったいない。」とぶつぶつ言いながら、その紙を家のリサイクルBOXへもっていくのです。正直、「プリント一枚でおおげさな。」と思っていました。しかし、そんなもったいないおばけが居たからこそ、私は自然にリサイクルを心がけるようになったのです。

ある日の早朝。私は母に頼まれて、燃えるごみを出しに行きました。その時、同じくごみ出しに来たであろう女性と出会いました。その女性は、今日は古紙回収の日ではないのに、たくさんのお紙を持っていました。私は驚いてその女性のことを、じっと見ましたが女性は私に目もくれず、そそくさと去ってしまいました。燃えるごみの場所に残された古紙を見ると「あの時、声をかけられていれば。」と胸がちくりと痛みました。

あの時、私が声をかけられなかったのは、私がまだリサイクルをやらされていたからだと後から気付きました。私は、これまで一度も、なぜリサイクルをするのかということを考えたこともなかったのです。

私はリサイクルについてもっと知りたい、と思い母に話を聞いてみることにしました。すると母は、リサイクルをすることで多くの資源が無駄にならずに

済むこと、二酸化炭素の排出を減らすことで、地球温暖化の解決につながるなど、たくさんのことを教えてくれました。

「リサイクルをするっていうのは、地球を守ることと同じなのよ。」

私は、これまでリサイクルしてきた古紙たちの重みを感じ、少し誇らしく、何か大きなことを成しとげたような気分になりました。

それから数日後。私がまた、燃えるごみを出しに行くと、その女性が以前と同じように古紙を捨てていました。前までの私なら、ここで何も言うことはできませんでした。けれど、今の私は違います。リサイクルすることの大切さを知り、やらされているではなく、自分から“やる”リサイクルができるようになりました。私は勇気を振り絞り、女性に古紙はリサイクルできることを伝えました。すると、女性はちゃんと納得して古紙を持ち帰ってくれました。

「ゴミだと思ってたこの古紙も、ちゃんと生まれ変われるんだよね。教えてくれて、ありがとう。」

当事者意識をもった、自分から“やる”リサイクルは、大切な地球を守ります。“やらされている”リサイクルは長続きしません。だからこそ、私は自分から“やる”リサイクルの輪を広げるために、色々な人にリサイクルの大切さを伝えたいと思います。また、自分もリサイクルを続けていこうと思っています。

ポスター小学生部門

金賞

船橋市立中野木小学校 4年

須山 柚葵

聞いて！ぼくたちの声！



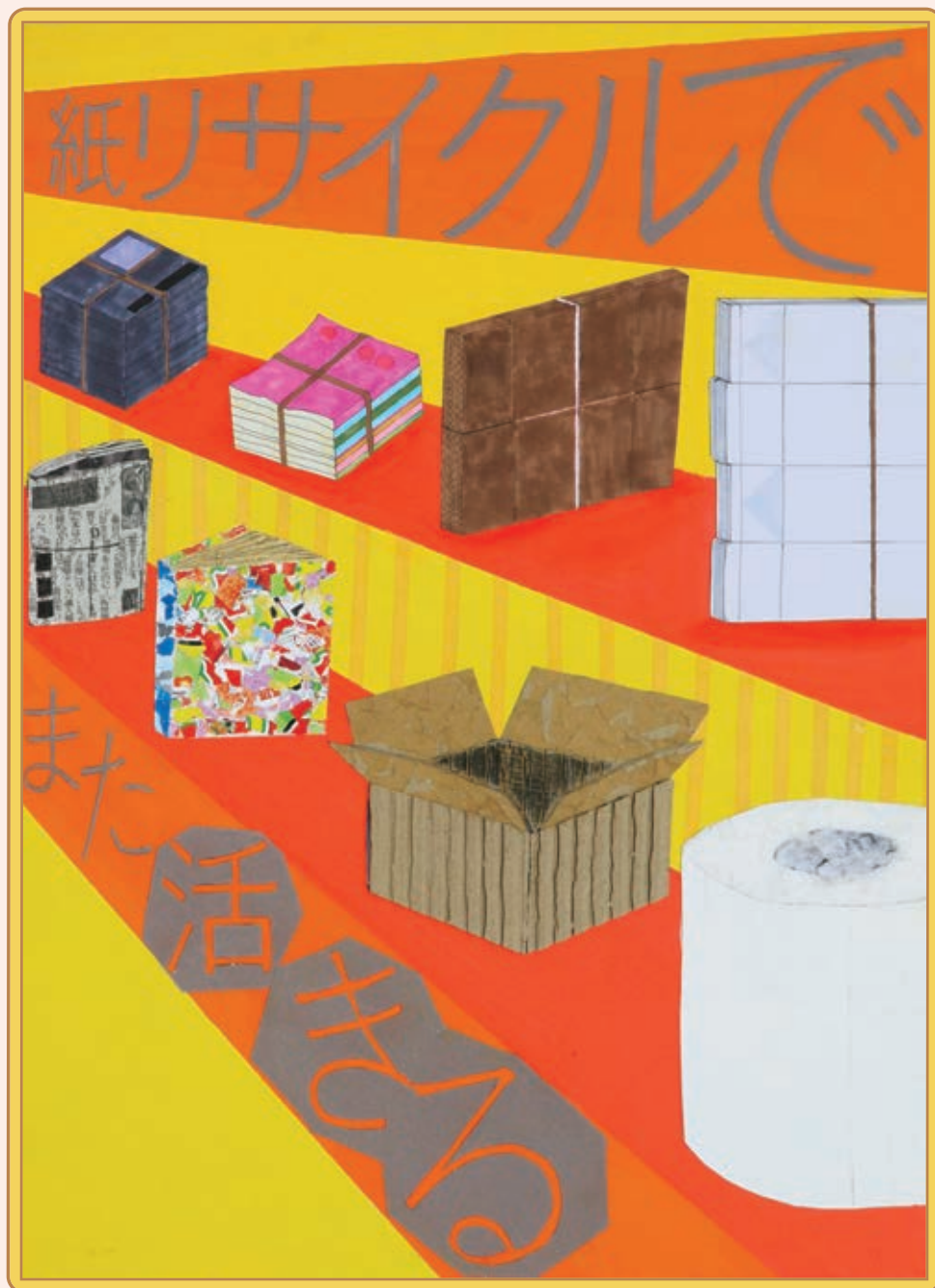
ポスター中学生部門

金賞

佐賀県立武雄青陵中学校 3年

原田 彩結

紙リサイクルでまた生きる



特別
金賞

国立筑波大学附属小学校 4年

藤本 怜央菜

リサイクルと節水の両立

社会科見学で清掃工場と埋立最終処分場に行った。分別できてないゴミが多いこと、最終処分場があと五十年しかもたないことが分かった。その時、もつと資源化を進める例として、牛乳パックは六枚でトイレットペーパー一つに生まれ変わると教わった。

その後、資源ゴミがそれぞれのようにリサイクルされるのか、過程や問題点などを自分で調べてみた。すると、リサイクルできるのに、なかなか資源にならないものがあることが分かった。それは紙パックだった。

缶や段ボールは、資源化率が高いのに、紙パックはそもそも回収率が圧倒的に低い。その理由として、紙パックをまな板がわりに使ってそのまま捨てられたり、紙パック製品を多くあつかうコンビニエンスストアでは紙パックの回収をしていなかったりすることがあるようだった。それに、コロナの影響で給食用の牛乳パックをリサイクルせずに捨てている割合が増えているそうだ。

私の家でも、これまでは、一リットルの牛乳パックはリサイクルに出していたが、野菜ジュースや豆乳などの小さい二百ミリリットルの紙パックは洗わずに捨ててしまっていた。ちゃんとリサイクルしなくては、と反省してジュースの紙パックも洗うことにした。

すると、紙パックを洗うのに思った以上にたくさんの水を使ってしまう。実は、ゴミの学習の前に、浄水場や水源林などの学習で、節水や川を汚さないように努力す

る大切さを学んだばかりだった私は、紙パックを洗うのに、紙パックの中身以上の水を使うことに罪悪感を覚えた。牛乳十ミリリットルを川に流すだけで、その水を魚が住める環境に戻すのに浴槽一杯の水が必要なのだ。なんとか、節水をしながら紙パックのリサイクルを進める良い方法はないだろうか。それに、紙パックの飲み物を全部飲み切ったと思って開いてみると意外に残っていてがっかりすることが多い。この飲み残しをへらせないだろうか。私は、しばらくモヤモヤした気持ちでジュースの紙パックを洗った。

ある時、夏休みに奈良で五重の塔の前で咲くハスの花と撮った写真をみてひらめいた。

紙パックの内側のポリエチレンをハスの葉のように表面をでこばこにして飲み物をはっ水させるのはどうだろう。パックの内側に今までへばり付いていたわずかなジュースもはっ水するから、飲み残しがへらせるし、洗う時も水をあまり使わずに済むはずだ。

そして、紙パックからストローを無くして直接飲むようにすると、洗う前のストローを取る手間が省けるし、飲み残しが見えやすくなるから、さらにへらせることができそうだ。

紙パックをもっと洗いやすくして、回収率を上げたいし、魚が住める川も守りたい。せっかくどちらも環境に良い行動なので、上手に両立できたらとてもうれしい。

特別
金賞

千葉市立葛城中学校 3年

山口 愛理沙

今、自分にできること

「ティッシュの空き箱はゴミ箱じゃなくてこっ
ちの箱に置いておいて。」

今年、小学生の妹と母は子供会に属し廃品回
收を行っている。そして、紙のリサイクルについ
て意識が高くなった母はやたらと私のゴミ捨てに
うるさくなった。初め、私はこの分別作業が面倒
くさく、積極的に協力ができなかった。

ある日、私は妹に定規を借りようと思い、妹の
机へ行くと、そこには紙リサイクルについてのポ
スターが置いてあった。ポスターには、廃品回収
で回収できる物や回収日時などがイラストつきで
細かく記載されていた。このポスターをどうする
のか聞くと、

「この団地にある共同掲示板に貼るんだよ。最近
回収量が減ってきているから。」

と妹が答えた。私は姉として古紙回収に興味を
持っていなかった自分がとても恥ずかしく思え、
それをきっかけに紙リサイクルについて調べてみ
ることにした。

紙リサイクルとは一度使われた紙を繰り返し使
うことで資源の有効利用ができ、森林資源の持続
可能な利用に貢献する活動のことである。また、
その活動は廃棄物として処理される紙の量を削減
し、廃棄物減量にもつながる。日本では、古紙回

收の仕組みが確立し、循環型社会の形成に大きく
貢献している。

調べた後、この未来を見据えての活動に思わず
「すごい」と言ってしまった。そして、家族に分別
できる物とできない物を尋ねて、話し合い、新たな
分別場所を設けることにした。今では紙を「ゴミ」
と見るのではなく、どれがリサイクルできる製品
なのかと注意を払って見分けるようにしている。

また、そもそも紙の廃棄量を減らすために白い
裏紙を計算用紙やメモ用紙に再利用するなど身近
なことで自分にできそうなことを行っている。そ
のことを友人に話すと、

「いいね。私もやってみる。」

と言ってくれた。このように、紙リサイクルの大
切さを知った誰かがまた違う誰かに伝えていく。
そして、徐々にそれぞれがそれぞれにできること
をしていき、それが広まっていく。私は「塵も積も
れば山となる」ということわざを思い出した。まさ
にその通りだ。一人一人がたとえ些細なことでも
自分にできることを行えばそれは社会に大きな変
化をもたらす。しかし、反対に小さなことをおろ
そかにすればいつかツケが回ってくるのは私達で
ある。だから、私は今から自分のできることを行
い、明るい未来に貢献したい。

段ボールリサイクル協議会 会長賞

特別
金賞

紫山こども絵画造形教室 2年

千葉 結奈

また 会おう



明治学園小学校 4年 野入 桃子
古紙を生かす～紙リサイクルの大切さ～

「つわっ！こんなにあるの？」

古紙回収日の前日に、私は母と回収のための準備をする。家から出される古紙は様々。父が読む新聞、私のマンガ雑誌、その他の雑誌など。これらは全て大切な資源、紙リサイクル界のトップアイドル達だ。

私が住んでいる地いきでは古紙回収の日が月の初めの土曜日のみ。毎月一回なので、うっかりとその日を逃すと回収されない。つまり、大切な資源が家にとどまりリサイクル出来ないということだ。リサイクルはとても大切。なぜなら資源は無限ではないのだから。

私は、たまった古紙をそれぞれの種類別にまとめていく。結構な量だ。汗をかきながら全てをまとめても、仕事はまだある。古紙を回収場所まで運ぶために、台車に乗せておくのだ。回収日当日に、指定場所へ出したら任務完了。ふう、やれやれ。今月も古紙を無事に届けられた。「古紙回収リサイクルポイント活動」を知る前までの私の行動は、こんな感じだった。

「古紙回収リサイクルポイント」とは、古紙を回収してくれる場所に古紙を持ち込み、その重さによってポイントがもらえる活動だ。ポイントがたまれば商品券が発行される。設置場所は、日々の買い物が出るスーパーマーケットの入り口の横で、回収された古紙はもちろんリサイクルされる。買ひ物のついでに古紙回収が出来るなんて、なんと有り難いことだろう！しかもここには回収の日の指定がなく、いつでも回収してもらえるのだ。この活動を知ってから、私の家に古紙がたまることもなくなった。

利点しか思い当たらない古紙回収リサイクルポイントだが、唯一の欠点を私は見つけてしまった。これほど便利でお得な活動であるにも関わらず、この活動を知っている人が少ないのだ。もっと、みんなに知ってほしい。この活動が、もっと広がってほしい。

紙は昔、とても貴重な物だった。紙のない時代には、木の葉や樹皮、石、けもの骨などに文字を記していたそうだ。紙が作られるようになり、私達の暮らしは便利になった。文字による文化も進んだ。紙を使う私達は、紙に敬意を払わなければならない。

紙は木から出来ている、そうイメージしている人も多いだろう。そういう私も、紙について調べる前はそう思っていた。現在、紙の原料は約66%を古紙が占めているらしい。つまり、私達が資源として回収してもらった紙だ。だからこそ、正しく分別して回収されなければならぬのだ。

私達の生活の一部であり、大切な存在である紙について考えてほしい。資源を大切にするために、より多くの紙がリサイクルされるために、私はこれからも活動をしていきたい。集めた情報を、みんなに伝えていきたい。

気仙沼市立松岩中学校 3年 佐藤 里桜
続けること 伝えること

「名寄市の紙リサイクルはすごいよ。市役所の入り口に回収ボックスがあつてさ……」

四月、姉の引っ越しの手続きで北海道名寄市を訪れた父が私に話してくれた。紙リサイクルに関心がある私は、「どのような仕組みなんだろう？」と、とても興味を持った。そして、この夏、私は北海道の名寄市役所に行き、紙リサイクルについてお話を聞くことができた。対応してくださったのは女性の方。私はドキドキしながら聞いてみた。「いつごろから始めたんですか。」「回収ボックスはいろいろあるところに置いてあるんですか。」「女性の方は私の質問に丁寧に答えてくださった。その中で私が驚いたのは、ずっと前から名寄市ではリサイクルの方法などを説明したパンフレットを作成し、市民の皆さんに繰り返し協力をお願いしていること。それがいつからなのかわからないほど前からだということ。私は繰り返し協力をお願いし、地道に回収する努力を続けることと協力を増やしていくことの大切さを実感した。

中学一年生のころから始めた私達家族の紙リサイクル活動。父の職場や私が通う中学校でも回収を呼びかけるポスターを作成し、貼ってもらったり、手作りの回収ボックスを置いてもらうことで、協力をお願いしてきた。私の家の紙リサイクルの量はこの一年で二百五十キログラムを超え、父の職場では一トンを超えたそうである。父の職場の人が家庭からの雑がみを持ってきてくださるようになり、協力してくださる方も増えてきた。地球に優しい持続可能な社会を目指す上で、私達の活動は小さいかもしれないが、確実に資源の有効活用につながっていると思うとうれしくなる。

私は、より多くの人に紙リサイクル活動に参加してもらいたいと思った。そこで、名寄市で学んだことを参考に、「コピー紙やお菓子の箱等の雑がみの回収を呼び掛けるプリントを作成し、紙袋とともに知り合いの方に配ることにした。袋の中に集めてもらい、回収場所に運んでもらったり、私の家族に渡してもらうことでリサイクルの輪を広げたいと考えたからだ。また、古紙を原料とした紙製品をどんどん使うように呼びかけるプリントも作ってみた。この試みが紙リサイクルの大きな輪となり、未来の私達の生活がより良くなるようにこつこつと続けてきたいと思う。

この三年間の紙リサイクル活動を通して、多くの人から意見や協力をもらい、自分の活動に取り入れ、リサイクルの輪を広げることができた。そして、多くの人に伝えることや協力することの大切さ、活動の充実感を実感することができた。今後も、自分ができることを考え、持続可能な社会を目指すためにも紙リサイクル活動を続けていきたいと思う。

ポスター
小学生部門
銀賞

世田谷区立山崎小学校 4年 中山 鼎
ありがとう また 紙になれたよ



ポスター
中学生部門
銀賞

石巻市立青葉中学校 3年 佐々木 恋海
生まれ変わる資源～新聞から絵本へ



みんなで協力 紙リサイクル

わたしは、紙リサイクルという言葉あまり知りませんでした。授業で紙リサイクルのことを教わって、今までのことをふり返ってみました。そういえば、いつも、学校からのお便りをお父さんに見せると、毎回のよう、

「ちょっと、そのプリントちょうだい」

と言ってくるのです。一方、わたしはいいなと思った紙をポイポイ捨てていました。わたしはいつもお父さんが紙をためていて、それが不思議でたまりませんでした。でも、お母さんも同じように、学校からのお便りなどは、すぐに捨てるのです。お父さんに、なぜ紙を集めているのかを聞くと、

「紙はリサイクルができるから、回収ボックスがある市民センターにまとめて持っていくんだよ。」

と言っていました。このことができていなかった、わたしとお母さんで話し合いました。わたしはお父さんから学んだことをお母さんに話しました。お母さんも賛成してくれました。お父さんにも、お母さんが賛成してくれたとほしくしました。そうしたらお父さんが、「じゃあ、みんなで紙リサイクルをしよう。」と言いました。紙を市民センターに持っていくのは、お父さんのたん当です。この日から紙リサイクルをみんなで言うことが、家族の習慣となりました。主な活動は学校のお便りをすぐに捨てないことです。他の紙は気をつけながら、ためていくのですが、お便りは、いらなとはんだんしたら、すぐに捨ててしまうからです。でも、そういうのも家族みんなで、

「紙は捨てたらだめだよ。」と注意をし合っています。

前、お父さんが市民センターへ紙を持っていったときに、いっしょに連れて行ってもらいました。そのときに、リサイクルできる紙も、分別しないといけないことがわかりました。それとも一つ、お父さんに、禁制品というリサイクルができない紙もあることを教わりました。分別することでは、ふつうのゴミに少し似ているなあと思いました。リサイクルができない紙については、初めて知ったのでおどろきました。

これからも、紙リサイクルをよく知ったり、体験したり、お父さんたちにも紙リサイクルのことをよく知ってもらいたいです。そして、家族で、紙を捨てそうになったら、注意をしたりして家族みんなで協力して紙リサイクルに取り組みたいです。

未来に届け

母は、よくスーパーの紙パックのジュースを買ってくる。どうしてペットボトルにしないの、と聞いたことがある。すると、

「だって、リサイクルできるじゃない？」とのこと。そして、我が家のキッチンには、切り開いたカラフルなパックが干されている。待っているのだ、きっと。新しい自分に生まれ変わり、再び役に立つ日を、静かに。

ニュースなどで、環境を守ろう、という言葉をよく聞く。自然環境はこのままだと増々酷くなるだろう。更に、資源も何もないところから無限に出てくる、なんて夢のような話はない。緩やかに、しかし確実に減り続ける。では、どうしたら環境を守れるだろうか。

そこで、身近な環境を守る方法として私は紙リサイクルをもっと進めるべきと主張する。誰でも取り組めるのに、あまり重要視されていないように思うのだ。

例を挙げよう。紙リサイクルといっても、全ての紙がリサイクルできないことを知っている人は、どれくらいいるだろうか。知らない人も少なからずいるだろう。そして、レシート、シール、そして急速に広まった紙マスク。この全てが、リサイクルできないことを知っている人は、どれくらいいるだろう。正しく紙リサイクルできている人は、かなり少ないと感じている。それは、紙リサイクルに対する興味と知識が足りないからだろう。

では、どうしたら紙リサイクルに取り組む人がもっと増えるだろう。とりあえず、私は「紙リサイクルって、そんなにめんどくさいじゃないよ。たった3つのハードルがあるだけ。1つ1つ、しっかり越えられる。」と、教えてあげたい。一つ一つ紹介しよう。

まずは、知識。先程も述べたように、かなり複雑で、覚えきれない。そこで我が家では、「リサイクルできないものリスト」を、「ゴミ箱の近くに貼ったのだ。それから、間違えることがうんと減った。」次に、物。具体的に言うなら、「リサイクルボックス」と、袋の2つ。リサイクルボックスとはその名の通り、リサイクルできる紙をまとめる箱。100円ショップで買った箱が我が家のリサイクルボックスだ。袋も、使わない紙袋で十分だ。どちらもお手軽である。

最後に、最大の難関の「やる気」。これまで述べてきたように、地球を守るうとする気持ち、ひいては未来を守ろうとする気持ち。それが大事なのだと思う。

環境を守る、と聞くと、すごく大きなスケールで、自分には到底できっこない、と思っている自分がいた。でも、紙リサイクルは、誰でもできる。ふと、思った。

「この紙は、誰かが前の紙を送り出して、今私が使っている。あたりまえじゃない。すごいことだ。」と。過去がくれたこの紙を、私はリサイクルで未来に送っていくんだ。その人生ならぬ紙生に応援を。いつてらっしやい。



羽島市立竹鼻小学校 5年 浅野 智恵
生まれ変わるなら、生きているうちに！

私は、昨年、紙リサイクルを調べていると紙には、生きている紙と死んでしまっている紙があることを知りました。

生きている紙とは、まだ使える紙であり、また新たに生まれ変わる可能性のある紙です。

私の家では、牛乳などが入っていたパックは水洗いし、乾かします。かねんごみとして牛乳パックを処理すれば、そこで牛乳パックの命は終わってしまいます。でも、ひと手間かけて、パックを洗うことにより、その紙は、まだ生きていることを知りました。

私は、紙も人間と同じだと思いました。健康に気をつけて、自分の身体を大切にすることで、命を延ばすことができます。そして、自分の悪いと思うことや駄目な所を努力してこく服したり、努力することにより、人は生まれ変わることができると思います。

死んでしまっている紙とは、ドーナツやピザなどの食品がついた汚れたものです。またせつけんなどのにおいがついた紙です。そういう死んでしまった紙は、生まれ変わることができません。

私は、人間も紙も、生まれ変わるなら、生きているうちにしたいと思いました。私は、人前で話すことが苦手なのですが、最初からチャレンジしないで、あきらめてしまふのではなく、自分ができることをしていきたいと思いました。

私ができることは何かと考えたとき、紙を死なせないことだと思いました。紙を生きているうちに、新しい命を与えることだと考えました。私は、具体的に、何ができるかを考えてみました。

一つ目は、資源をきちんと分別することです。自分の家で、紙パックを洗い、乾かし、リサイクルすることです。

リサイクルを調べてみると、リサイクルできるものと、リサイクルができないものがあることも学びました。紙をリサイクルできるものには、「紙リサイクル」のマークがついています。古紙を原料に利用した製品に付いている「グリーンマーク」やアルミのない紙パックに付いている「紙パック識別マーク」リサイクル段ボールに付いている「段ボールリサイクルマーク」や「牛乳パック再利用マーク」や古紙を表示の割合使った「再生紙使用マーク」があることが分かりました。

そこで、私ができる二つ目は、紙に付いているマークを確認する習慣をつけることです。このマークが付いている紙は、私達の手で、生き残ることも、死んでしまうこともあるのです。この紙を生かすのは、私達次第です。資源として生まれ変わる宝物を私達は、洗ったりきれいにし、分別して、紙も生きているうちに、違う新しい製品に！そして、私もチャレンジして、新しい自分に生まれ変わりたいです！皆さん、紙も自分も、生まれ変わるなら、生きているうちに！



てら小屋遊学舎 2年 鈴木 結菜
私と母とリサイクル

私の家では、新型コロナウイルスの影響でネット商品を買うことが増えた。商品が入っていたダンボールを家のあちこちで見かけることが多くなった。そんなある休日に、溜めてあったダンボールを母が束ねているところを偶然見かけた。そのまま、ダンボールを片手に家を出て行ったので、私は気になり母の後を追いかけた。

母は、家から少し離れた公園にいた。ダンボールを抱えながら、誰かと話していた。よく見たら、近所のおばさんだった。おばさんは、肩から新聞紙や雑誌の入った袋を下げていた。私は、不思議に思いながら、公園から出てきた母に何をしていたかを聞いた。母は少し驚いた顔をして「ダンボールのリサイクルをしたのよ」

と言った。母は、ネットで買った商品の入っていたダンボールをリサイクルに出していたのだ。母が私には内緒でそんな活動をしていたことに驚いた。これまで私は、そんな場所があるなんて知らなかった。少しづつリサイクルに興味を持ち始めた私は、母と一緒にリサイクルを行っていた公園へ通うようになった。そこは小さな公園だったが、真ん中に『ダンボール』や『新聞』と書かれているボックスが、一列に沢山並んでいた。行ってみると、親子連れや高齢の方々、ご夫婦など沢山の人がリサイクルに協力していた。みんな、楽しそうに分別を行っていた。小さい子供でもリサイクルに関わりやすいように、スタンプカードが作られていた。初めての方にも丁寧に説明を行っていたりする人もいた。一人一人がリサイクルに真剣に取り組んでいて、私はその人達の姿勢にとても感心した。母いわく、このリサイクル活動は、地域の人と関わることでできる大事な役割を担っているらしい。私も、地域の人と関わりたいたいと思い、母が持っていたダンボールを半分分けてもらった。そのダンボールを分別ボックスの中へ入れた。その様子を見ていた女性が「あちらでスタンプを押せますよ」と教えてくれた。私は、少し間をおいて女性に「リサイクルって楽しいですか？」と聞いた。女性は、分別ボックスを一つ持ち上げながら「楽しいですよ。地球を守っているヒーローになった気分です」と言い笑った。私は、その言葉を聞いて、素直に感心した。リサイクルは、意外と身近にあるもので、誰でもできることだけれど私はしたことがなかった。しかし、この場にいる人達は自らリサイクルに協力しているのだ。それ程、難しいことではないのだが、あまりしなかった。私もそうだった。でもこの経験を通して、リサイクルの重要性、紙資源の大切さなどを改めて知ることができた。リサイクル活動は、一人一人の力は小さいが集まると大きな力になるのだ。そう考えた私は、これからもダンボールや新聞紙を持って公園へ足を運んでいきたい。

リサイクルする社会へ

夏休みにごみ出しを頼まれてマンションのごみ置場に行くことと違和感を感じました。なぜだろう。それは牛乳パックが燃えるごみとしてごみ袋の中に入っていたからだと気付きました。紙パックは大切な資源なのにどうしてリサイクルしないのだろうか。原因を考えてみると、私の頭の中に浮かんだのは二つ。まず、そもそも紙パックがリサイクルできることを知らないから？というのが一つです。そして二つ目は処理するのが面倒だから？ということ。紙パックをリサイクルするには、空になった紙パックを水洗いし、はさみなどで切り開いて乾かす必要があります。燃えるごみで出すときよりも行程が増えるので面倒に感じる人も少なくないと思います。

私は小学生のとき学校でSDGsについての調べ学習を行いました。その時重点的に調べたのが、目標12「つくる責任つかう責任」です。この学習は、資源のリサイクルの大切さを知るきっかけになりました。また、私は小学校の自由研究で牛乳パックからハガキを作ったことがあります。出来上がったハガキは表面がデコボコしていたけれど、手作り感があって思い出に残る作品になりました。牛乳パックで紙ができるということをもつて体験することができ、とても良い機会になったと思います。それから私はリサイクルに興味をもつようになりました。

紙パックをリサイクルすれば、トイレットペーパーやティッシュペーパーなどに生まれ変わります。調べたところ、紙パック六個をリサイクルするとトイレットペーパーが一個作れるそうです。少しの違いに感じるかもしれないけれど、これが何百、何千となるとかなりの量になると考えられます。

紙パックの回収率は年々減少しています。スーパーなどに買い物に行くとき牛乳パックの回収ボックスをよく見かけます。私たちの周りにはリサイクルに協力しやすい環境だということに初めて気付きました。つまり回収率が伸びないのは回収“できない”からではなく、“しない”からなのではないかと思えます。紙パックをリサイクルするためには色々な人への呼びかけが大事だと思います。特に子供は、手作り体験などを通して小さいうちからリサイクルを学ぶと、自然に身について大人になってもそれを継続していけると思います。洗って開いて乾かす。このたった三行程をするだけで私たちの地球環境に貢献できる、そのことを多くの人に知ってもらえれば、進んでリサイクルができる世の中になるだろうと考えています。

リサイクルの輪の一員として

私が通っている学校では、紙のリサイクル活動が盛んにおこなわれている。各学年の教室に古紙回収ボックスが置かれていたり、地域の人でも利用できる回収ボックスが校内にあったり。特に力を入れているのが、紙パックの回収だ。そんな紙パックに関する私の体験談を紹介しよう。

私の家では、毎週日曜日に牛乳や、ジュースの紙パックをリサイクルに出す、というきまりがある。ある時、ジュースを飲みおわりパックを開いている私に、母が言った。

「ちよっと、ちゃんと開いてないじゃない。」いつも母が口うるさく私に注意してくる。耳にタコができるほど聞いた。「ちよっと開いていなくてもリサイクルできるでしょ。」私は少しイライラしながら、心の中でつぶやいた。

それから何日かたったある日、学校でリサイクルについて学ぶ講座がひらかれた。そこで講師の方が私たちに伝えたある事が、私の頭に強くのこっている。

「私たちが使っている紙には限りがあります。無限に紙を使えるわけではないのです。」

「有限な紙を今後も使い続けるために、紙の再資源化を理解して、リサイクルに参加しましょう。」

有限な資源をこれからも保つためにリサイクルがあり、そのリサイクルの輪を回すのは、私たち一人ひとりが、正しい知識と正しい方法で紙を処理していく必要があるのだ。自分からはじめなければ、リサイクルの輪を回すことはできない。

家に帰ってから、私は紙パックのリサイクルのしかたについて調べた。すると、紙パックはしっかりと開き、汚れをとらないと、十分にリサイクルすることができないことがわかった。今まで自分が「正しいリサイクルだ。」と思っていたものが、百八十度ひっくりかえされた。

正しい方法でひらかれた紙パックを収集場所にもっていくと、衝撃的なものを見た。それは、汚れた紙パックを近くの水道で洗っている人達だった。私もすぐに参加し、手伝った。かなりの数を洗ったのだらう。その人達の指先はふやけて、しわしわになっていた。この衝撃的な出来事から、何週間後かに、私は回収場所にある看板をたてた。

「よごれた紙パックを置いていかないで。」

「しっかりと開こう。」

単純な内容だが、多くの人に正しいリサイクルのしかたを知ってほしいと思い、看板を設置した。結果的に、少しずつではあるものの、よごれていたり、ひらかれていない紙パックが減ってきている。

このことから、私は、リサイクルの輪を広げるためには正しい知識を身につけることが大切だと学んだ。

私たち一人ひとりが、リサイクルの輪を作り、守っていく一員であり、明るい未来をになっていることを忘れないでほしい。



品川区立小山小学校 1年 大岡 晃平
かみをリサイクルしよう



幅下幼稚園・絵画教室 6年 奥村 優月
大切な資源を紙リサイクルで新しく

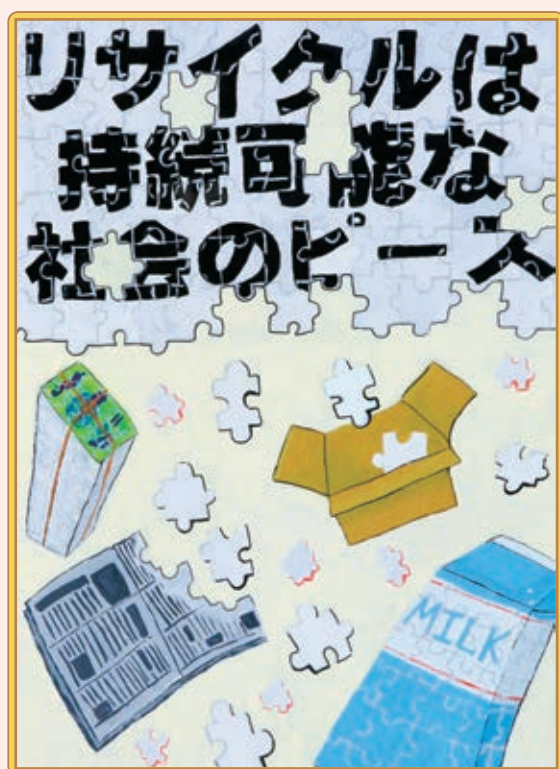




豊川市立牛久保小学校 6年 小林 柚菜
変身！！ リサイクルレンジャー



弘前市立第三中学校 2年 一戸 彩乃
リサイクルは持続可能な社会のピース



リサイクル家系図



待って！捨てないで





学校特別賞

愛知県

刈谷市立依佐美中学校



【沿革】

昭和22(1947)年4月 開校

児童数 665名

学級数 23学級

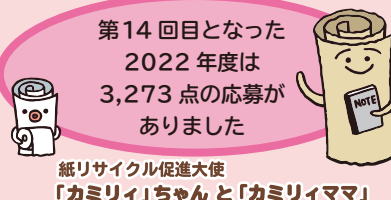
田中 敦子 校長先生からのコメント

本校では、リサイクル委員会を中心にリサイクル活動に力を入れています。今年度は学校創立75周年であり、生徒が行った資源回収の収益金で地域への感謝の思いを伝える花火を打ち上げたり、全校生徒による75周年記念のペットボトルキャップアートを創ったりしました。記念すべき年に学校特別賞を受賞することができ、大変光栄です。今回の受賞を機に、更にリサイクル活動や地域貢献に向けた取組が活発になることを願っています。

継続応募年数 11年 (平均作品数 11点)

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト

毎年度、全国の小中学生に“紙リサイクル”に関する作文、ポスター作品の募集を行い、応募作品の中から優秀作品を選定し、受賞者を表彰しています。



【コンテストの内容】

募集対象 全国の小学生・中学生ならどなたでも

テーマ

- ・紙リサイクルに関する活動・体験やアイデア
- ・紙リサイクル活動と持続可能な社会づくり

募集部門

作文（小学生部門、中学生部門）
ポスター（小学生部門、中学生部門）

スケジュール 例年 5～6月 募集開始、秋頃締切

* 来年度の募集開始・応募締切は、新型コロナウイルスの状況より判断し、当センターホームページ等にてお知らせします。

賞と賞品

文部科学大臣賞 作文部門 1点、ポスター部門 1点
(賞状・楯・副賞図書カード 5万円)

金賞 各部門 1点 (賞状・楯・副賞図書カード 3万円)

特別金賞 3点 (賞状・楯・副賞図書カード 3万円)

銀賞 各部門 1点 (賞状・楯・副賞図書カード 1万円)

銅賞 12点 (賞状・副賞図書カード 2千円)

学校特別賞 2校以内 (賞状・副賞ギフトカード 5万円)

学校奨励賞 2校 (賞状・副賞ギフトカード 2万円)

参加賞 (応募者全員に記念品)

2022年度 応募数

応募点数	小学生	中学生	合計
作文部門	252	445	697
ポスター部門	1,143	1,433	2,576
合計	1,395	1,878	3,273

応募件数	小学校	中学校	合計
応募学校数	53	121	174
教室、塾など	13		
個人応募数	86	総件数	273



学校奨励賞 小学校部門

東京都

荒川区立第三日暮里小学校

2022年度 応募作品数 268点（作文 56点、ポスター 212点）

学校紹介

大正7年4月の開学当時、着任した中村雨紅先生が「夕焼け小焼け」を作詞し発表されました。本校の第二校歌として今でも歌い継がれており、地元の方から「ゆうやけこやけの学校」として親しまれています。地域の繊維街やリサイクル企業と連携した委員会やクラブ活動も盛んで、「もったいない」という気持ちが子どもたちに根付いています。学校図書館研究校として長年読書活動を推進し、辞書引き学習法に力を入れ、全校で語彙力向上に取り組んでいます。



【沿革】

大正7(1918)年4月 開校

児童数 420名

学級数 14学級



学校奨励賞 中学校部門

福島県

白河市立白河中央中学校

2022年度 応募作品数 450点（ポスター 450点）

学校紹介

本校は福島県南部に位置し、歴代白河藩主の居城、小峰城や、寛政の改革を行った松平定信により築造された日本最古の南湖公園などの景勝地が学区内にあります。全校生徒が大堀相馬焼の作陶に取り組み、白河だるま、地元の工芸張り子に絵付けをしています。環境教育の一環として空き缶を回収し、生徒達が継続して花を育て、地域の施設に花苗のプランターを毎年贈呈しています。奉仕活動から郷土への愛着が高まっています。



【沿革】

昭和22(1947)年4月 開校

生徒数 451名

学級数 17学級

審査会ノミネート校・教室一覧

審査会にノミネートされた作品の応募校名・教室名一覧です。

作文小学生部門

千葉県	鎌ヶ谷市立五本松小学校
	富里市立富里南小学校
	船橋市立大穴北小学校
東京都	荒川区立第三日暮里小学校
	国立筑波大学附属小学校
	品川区立大井第一小学校
長野県	松本市立芳川小学校
岐阜県	羽島市立竹鼻小学校
静岡県	富士市立富士川第二小中一貫校 松野学園
三重県	てら小屋遊学舎
香川県	高松市立栗林小学校
福岡県	明治学園小学校
長崎県	長崎大学教育学部附属小学校

作文中学生部門

宮城県	気仙沼市立松岩中学校
茨城県	東海村立東海中学校
千葉県	専修大学松戸中学校・高等学校
	千葉市立葛城中学校
	麗澤中学・高等学校
東京都	江戸川女子中学校・高等学校
	学習院女子中等科
神奈川県	横浜市立並木中学校
静岡県	静岡市立蒲原中学校
三重県	てら小屋遊学舎
大阪府	関西大学第一中学校
兵庫県	川西市立川西中学校
和歌山県	近畿大学附属和歌山中学校
広島県	武田中学校・武田高等学校
	廿日市市立廿日市中学校
山口県	周南市立岐陽中学校
愛媛県	今治明德学園今治明德中学校
宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校

ポスター小学生部門

北海道	釧路市立大楽毛小学校
宮城県	紫山こども絵画造形教室
千葉県	船橋市立中野木小学校
東京都	荒川区立第三日暮里小学校
	江戸川区立南葛西第二小学校
	品川区立小山小学校
	聖徳大学附属小学校
	世田谷区立山崎小学校
神奈川県	アトリエ ENDO
静岡県	富士市立富士第二小学校
	富士市立吉原小学校
愛知県	豊川市立牛久保小学校
	名古屋市立瑞穂小学校
	幅下幼稚園・絵画教室
京都府	亀岡市立亀岡小学校
大阪府	堺市立英彰小学校
福岡県	福岡市立愛宕浜小学校

ポスター中学生部門

青森県	弘前市立第三中学校
宮城県	石巻市立青葉中学校
福島県	白河市立白河中央中学校
埼玉県	所沢市立狭山ヶ丘中学校
	さいたま市立上大久保中学校
東京都	アトリエ IT
	品川区立日野学園
神奈川県	アトリエ ENDO
愛知県	刈谷市立依佐美中学校
兵庫県	小林聖心女子学院中学校
	神戸市立鷹匠中学校
奈良県	天理市立北中学校
岡山県	朝日塾中等教育学校
佐賀県	佐賀県立武雄青陵中学校

※都道府県別・五十音順。団体・個人応募問わず。

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト 2022
入賞者一覧・受賞作品 作品集

企画・発行

公益財団法人古紙再生促進センター

<http://www.prpc.or.jp/>

〒104-0042 東京都中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4F

TEL: 03-3537-6822 FAX: 03-3537-6823

本作品集はこちらからご覧いただけます。

http://www.prpc.or.jp/activities/public_relations/award/



古紙再生促進センターは2024年に創立50周年を迎えます